

10月は3R推進月間です

3Rとは環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードとして、Reduce（リデュース：廃棄物の発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の頭文字をとったものです。優先順位はReduce>Reuse>Recycleです。

平成22年度

長野県循環型社会推進大会 開催レポート

日時：平成22年10月19日（火） 13:30～16:10（開場 12:30）

場所：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）小ホール

テーマ：ムダなゴミ ださない捨てない つくらない

（平成21年度環境保全に関する標語コンクール入選作品）



主催 / 長野県、信州豊かな環境づくり県民会議

プログラム

◇13:30 開 会

◇13:35 循環型社会形成推進功労者知事表彰

◇13:55 事例発表

- ① 信州大学生協同組合 専務補佐 中村 誠一 氏
信大キャンパスにおける「リ・リパック(リサイクル弁当箱)」使用と回収の取組
- ② ユニー株式会社 環境社会貢献部 部長 百瀬 則子 氏
食品リサイクルループは命をつなぐ環 ～未来の子供達に美しい自然を残したい～

◇14:30 県事業のお知らせ

～ 休 憩 ～

◇14:45 講 演

演題 「食品残さ削減 ～キーワードは地産地消～」
講師 オーベルジュ・エスポワール 藤木 徳彦 氏



◇15:30 環境講演と落語

演題 『もったいない』を身近なことから 自分スタイルで始めよう
講師 林家 うん平 氏 ～講演のあとは『落語』～



◇16:10 閉 会

◇ ブース展示 12:30～16:10

●長野県●信州豊かな環境づくり県民会議●長野県リサイクル資材協会

開会あいさつ

長野県環境部長 荒井英彦

信州豊かな環境づくり県民会議 会長 北條舒正

荒井環境部長



○大量生産、大量消費、大量廃棄型のライフスタイルから脱却し、環境負荷の少ない持続可能な資源循環型社会を形成するためには、廃棄物の適正な処理はもとより、あらゆる経済活動や県民の暮らしの中にリデュース・リユース・リサイクルの3Rの理念の浸透を図り、県民、事業者、行政がそれぞれ廃棄物の発生抑制や資源化に取り組む社会づくりを進める必要があります。

○これからも、県民、事業者、行政が一体となって真の循環社会に向けた3Rの取組を進めていきたいと考えておりますので皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、本日の大会にご参加いただいた皆様にとって改めて3Rの必要性や実践方法を認識していただく機会となることをご期待申し上げます。

北條会長



○信州豊かな環境づくり県民会議では22年度の重点率先取組事項として「地球温暖化防止に向けた取組の推進」と「循環型社会形成に向けた取組の推進」を掲げ、環境保全活動への意識の高揚を図る取組を進めています。

○循環型社会を形成するためには、県民、事業者、行政がそれぞれの役割を踏まえ相互に協力し、ごみの減量化を推進していく必要があります。

○本日の大会は時間的には短い会ですが、是非色々なことを学んでいただき、周りの方達へ広めていただきたいと思います。

循環型社会形成推進功労者知事表彰

「循環型社会形成推進功労者知事表彰」は、廃棄物の適正処理や減量化・資源化の分野において、取組を推進し、啓発、指導、教育など活動を継続し、すぐれた功績を挙げている事業者、個人、グループ及び学校等を表彰するもので、平成16年度から実施しています。

平成22年度は、「事業者の部門」において7名、「個人・グループ・学校の部門」において13名、その他の部門において2名、合計22名の皆様へ知事表彰が授与されました。

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
事業者	ミヤマ株式会社	長野市	産業廃棄物収集運搬及び中間処理業の業務を行い、業許可は全国80ヶ所以上で取得。環境に適合した産業活動へ向け、総合環境企業としてあらゆるフィールドから環境保全のための具体的施策等について研究開発を行う。
事業者	直富商事株式会社	長野市	産業廃棄物収集運搬業、中間処理業、及びOA機器・廃食用油・プラスチック・食品廃棄物・古紙等々のリサイクル業を行う。「全ての廃棄物を再資源化」をモットーに、静脈産業の総合商社として幅広く業務を展開する。
事業者	株式会社みすず工業	長野市	産業廃棄物処理業者として技術の向上に取り組み、人間の営みと地球環境の調和を保つ最前線の実務者として実践する。廃酸・廃アルカリ・汚泥等を無害化・減量化するという産業廃棄物処理は当社事業活動の中核をなす。
事業者	有限会社篠原商店	上田市	昭和24年創業。金属・古紙・ウエス・プラスチックなどのリサイクル事業をはじめ、一般・産業廃棄物の収集運搬・中間処理事業を行う。ISO14001も取得、循環型社会形成に貢献しております。
事業者	株式会社IHI回転機械	辰野町	総合エンジニアリング企業として、各種機械の製造・販売・サービス・エンジニアリングを核とし、地球環境保全に役立つ技術の開発と人材の育成に注力し、廃棄物の減量化、リサイクル、CO2の排出削減に取り組む。
事業者	長野日本無線株式会社	長野市	エレクトロニクスメーカーとして、環境経営の強化に向け計画した「環境プログラム2009」に添い、環境調和型製品の展開、環境配慮型設計の推進、廃棄物リサイクル率の向上、総廃棄物量の削減などに取り組む。
事業者	エア・ウォーター株式会社 エコロッカ事業部	長野市	廃材・未利用品の木材とプラスチックを原料としてリサイクルし建設資材を製造する事業を行う。原材料はほぼ100%未利用資源を使用。指定寸法仕上で製造時の廃材を削減。ECOROCAは県のリサイクル認定製品。
個人・グループ・学校 (個人)	南木曾町衛生自治連合会会長 長嶺 末三 (ながみね すえぞう)	南木曾町	ごみの出し方の街頭指導や巡回指導を行う。リサイクルビンの洗浄やラベルの除去を率先して実施。生ごみの分別収集では居住地区をモデル地区として見本を示す。プラの分別収集では地域の説明役として取組を推進した。
個人・グループ・学校 (個人)	勝山 昌晴 (かつやま まさはる)	須坂市	10年間ごみを拾い続ける。軽自動車に清掃道具を積み、市内のポイ捨てが多い場所のパトロールとごみの回収を毎日行う。空き缶、ペットボトル、びんは分別後洗浄してリサイクルする。子どもたちにも声かけを行う。
個人・グループ・学校 (グループ)	信州大学生生活協同組合	松本市	大学生協とISO学生委員会が中心となり、全キャンパスで「リ・リパック」(リサイクル弁当箱)の使用と回収に取り組む。回収率と利便性を高める工夫で回収率は55%まで上がり、可燃ごみが大幅に減少した。

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
個人・グループ・学校 (グループ)	社会福祉法人 中信社会福祉協会 障害者支援施設 共立学舎	松本市	知的障害者授産施設として環境に配慮した自主生産とリサイクル事業を行う。開設以来廃食用油を回収し石けんを製造、河川の浄化に努める。H16年からBDFの製造を開始。取組を通じ利用者の工賃向上や就労を支援。
個人・グループ・学校 (グループ)	アルミ缶つぶしボランティア	飯綱町	商工会女性部、消費者の会、北部高校生徒会が協働しアルミ缶リサイクルを行う。平成3年の活動開始以来の総プレス重量は約2万9千kg、売上金額は約170万円。収益金は福祉関係や北部高校生徒会活動費として還元。
個人・グループ・学校 (学校)	長野県上田東高等学校	上田市	信州大学繊維学部と上田市が協力する「生ごみ循環システム」に学校が関わり、生徒会を中心に校内から出る生ごみを回収して関係者と堆肥化を行う。作られた有機肥料は花壇栽培や自治会へ贈るなど環境美化へ生かす。
個人・グループ・学校 (学校)	飯田市立飯田東中学校	飯田市	昭和21年から続く道路清掃と称される町内清掃を全生徒が実施。毎月第一土曜日の朝自地区の清掃を30分行う。毎週水曜日にリサイクル活動クリーン登校を実施。アルミ缶や牛乳パックを回収し収益金で車いすを購入。
個人・グループ・学校 (学校)	飯田市立緑ヶ丘中学校	飯田市	社会福祉指定校として、通学路のゴミ拾い、毛賀駅の清掃、施設との交流など活動を実施。現在、生徒会が中心に週一回の「ボンボン活動」（登校時のゴミ拾い、アルミ缶収集）や交流活動を継続。収益金で車いす等購入。
個人・グループ・学校 (学校)	筑北村立聖南中学校	筑北村	生徒会主催でアルミ缶回収を実施。地域へ恩返しをスタートし、回収量は年間約3トンにも上る。約3トンのアルミ缶リサイクルは約10万kw/hの電力量を節約する（世帯の17年間分の使用量）と活動の意義を深める。
個人・グループ・学校 (学校)	大桑村立大桑中学校	大桑村	生徒会主催で6種類の資源回収活動を実施。①エコ活動に地域で取り組む②生徒会活動資金を得る③勤労の尊さを知る④地域や保護者とのつながり感謝の心をもつ、と目標を明確化し、回収方法を工夫しながら活動を継続。
個人・グループ・学校 (学校)	下條村立下條中学校	下條村	生徒会活動として毎月1回「ゴミ拾い登校」と「リサイクル登校」を実施し、収益金を生徒会活動費に充てる。通学路はゴミが減り、村は家庭の資源物回収の負担が減った。3年生は村模擬議会で環境に関する提案を実施。
個人・グループ・学校 (学校)	長野市立芹田小学校	長野市	児童会リサイクル委員会主催で古紙やアルミ缶等の回収を実施。回収物を用いたリサイクル作品やどのようにリサイクルされるかを掲示するなど児童の環境意識を高める工夫を図る。収益金は児童会活動資金として還元。
個人・グループ・学校 (学校)	飯山市立泉台小学校	飯山市	学区内全戸にチラシを配布しアルミ缶回収を随時行っている。毎年600kg前後の回収があり収益金はすべて花栽培基金として春秋学校花壇の運営費にあてる。花栽培は全校児童が取り組み通年の計画的な学習となっている。
その他	峯村 冬木 (みねむら ふゆき)	松本市	松本市現業職員として一般廃棄物の収集運搬処理業務に従事し、清掃業務に貢献した。個人の価値観やライフスタイルが多様化する中、廃棄物の適正処理、資源化の促進、啓発に情熱を傾け、地域社会の進展にも尽くした。
その他	柴本 正志 (しばもと まさし)	中野市	北信保健衛生施設組合のし尿処理施設職員として従事し、処理技術の研究・学習に努め、技術者として後輩の育成を行った。施設運転の効率化により経費の削減に取り組んだ。住民に対し迷惑施設のイメージ払拭に努めた。



○荒井環境部長から知事表彰授与



○ミヤマ株式会社
取締役 環境整備事業部長
櫻井英明 様 謝辞

○受賞者、荒井部長、北條会長で記念写真



事例発表①

発表者／信州大学生協同組合 専務補佐 中村 誠一 氏

テーマ／信大キャンパスにおける「リ・リパック(リサイクル弁当箱)」使用と回収の取組



○リリパック弁当容器とは・・・

通常弁当容器を回収する時は洗って出すが、リリパック容器は内側にフィルムが貼ってあり、フィルムをはがして汚れた部分ときれいな部分に分別できる。簡単に回収でき、洗う手間が要らない、水を使わずに済む。

○信州大学のキャンパスは1年生全員が集まる松本キャンパスの他4つのキャンパスがあり、全キャンパスで取組まれている。

弁当19万個販売→全部ごみだった
ごみの排出量を減らそうと容器の回収を

始めたところ、2006年から2008年の間に回収率15%程度から55%まで延びた

○回収率アップのポイント

①利便性を高める

回収ボックスの置き場所：可燃ゴミ箱（フィルムを捨てる場所）と一緒に、人が集まりそうな場所、各階にたくさんあった方がいい。回収容器は必ずいくつか置き場に残し、置き方の例を残す。

②1年生のうちに「クセ」をつける

1年生は松本キャンパスに全員いる。新入生は素直。生協のオリエンテーションで、ISO学生委員会と一緒に分別、リリパック弁当の使い道を教える。エコキャンパスカードを配付。進級してキャンパスが分かれてもクセは抜けない。わからなくても問い合わせが来る。

③目を引く工夫

回収ボックスに工夫をして目立たせる。「犬小屋」「パンダ」の回収ボックスを作成、設置。
「犬小屋の所へ捨ててください」などと案内できる。

○回収した容器はリサイクル工場へ

ISO学生委員会、生協学生委員会は集めたりリパック容器がどのようにリサイクルされるかを知るために、山形県(株)ヨコタ東北へ工場見学に行き、学び、さらに取組に力を入れている。

リリパック容器のリサイクルの比率

フィルム(廃棄) 1Kg : 本体(リサイクル) 15Kg

廃棄する部分が16分の1に減った。



事例発表②

発表者／ユニー株式会社 環境社会貢献部 部長 百瀬 則子 氏

テーマ／食品リサイクルループは命をつなぐ環 ～未来の子供達に美しい自然を残したい～



○ユニー株式会社の店舗はドミナント方式（面で地域を限定）で分布している。

中部地方、関東地方に 234 店舗

⇒仕入れの運搬経路が少ない＝全国に散らばるチェーンストアより環境に良い。

○店舗形態

アピタ：都市部に 1 店：休日の買物や映画

エー・ピアゴ：アピタの周りに：毎日の買物

サークル K：ユニー・ピアゴの周りに：ちょっとした買物

○大きなスーパーマーケットは環境へ悪影響を与えている

電気、空調がつけっぱなし、扉の開いた冷蔵庫が並んでいる、車が集まり Co2 排出、大量の廃棄物排出（1 日 1 店舗 2 t ぐらい）⇒環境負荷ができるだけ少ない店作りをしたいと考えた。

○持続可能な社会を目指して

低炭素社会、**循環型社会**、**自然共生社会**がバランス良く作られていかないと次の世代に美しい自然を残せない。

循環型社会 容器包装をできるだけ使わない販売への取組、使った容器はできるだけ回収しリサイクル

- ・全店舗にごみの計量器を設置。ごみ分別毎にバーコード管理し、毎日分別毎の重量をデータ管理
- ・2003 年から試験的に計測開始し、ごみが減ったので 2005 年から全店舗で実施。
- ・量ると減る⇒なぜ増えたのか考える。減らそうとする。2005 年から 3～5%ずつ減った。
- ・生ごみ（キャベツの外側の葉っぱ、魚のあら）は、野菜や魚が売れば売れるほど増える

○食品リサイクルの取組開始。

食品リサイクル法 2001 年施行により 20%の排出抑制、再生利用、減量の義務

- ・堆肥を作る、豚のえさにする⇒作っただけではまたごみになる
- ・できた堆肥で野菜を作り店で売る⇒リサイクルの環ができる
- ・最初は売れるか心配したが、よく売れた。販売時の表示の仕方を工夫。
- 今までのイチゴ：福岡県から、収穫から 3 日掛けて仕入れていた。完熟していないもの。
- リサイクルイチゴ：近所の農家で作って販売。完熟して香りもいい。⇒**地域内での循環**
- ・2007 年 第 1 回食品リサイクル推進環境大臣賞受賞 その後も環をいくつか作ってきた。
- ・H22.8.19 再生利用事業計画認定 パンと野菜くずを使って飼料を作り豚を育て販売 美味しい豚、黒豚と同じくブランド豚、高く売れている。

○リサイクルの環を地域の中でたくさんまわしていくことが、スーパーマーケットの目指す食品リサイクル。物が回るだけではなく、経済的にもまわる。買っていただくことでまわることになる。リサイクルで作った品物を買いつけることでリサイクルの環をまわしていただければと思います。

○レジ袋削減の取組

ユニー全店舗中176店舗で有料化を進めている。

- ・便利で手軽なレジ袋のような容器包装でさえも、1回限りで捨ててしまえばごみになる。できるだけ使わなくて済む商売をしたい。
- ・無料配布中止、5円で販売：2007年6月横浜の店舗で実験し、12%売り上げが落ちた。(内訳：来店客数が落ちた5%、マイバッグ持参者が入りきらない分買わなくなった7%)
- ・売り上げが落ちた店舗では、原因はサービスにあるのではないかと考えた。レジ係のパート店員がマイバッグ持参を呼びかけた。
⇒3ヵ月後に売り上げが戻った。

- ・自治体、同業他社、消費者と共に無料配布の活動をしている。
- ・長野県内の店舗：5店舗中3店舗有料化
- ・使わなくていい容器包装は使わない。

牛乳パック、アルミカン、ペットボトルなどは全部回収

店舗にリサイクルボックスを置き回収→商品を運ぶ物流便でリサイクルセンターへ持って帰る



○環境を考えたコーヒー（COP10協賛事業）

日本でとれない農作物はどう作られているか？農薬を使わない、自然を壊さないという形で作られた商品を買いつければ、環境に気をつけた農業を続けていける。⇒持続可能な農業

そういう商品を売りたいし、容器包装の少ない物、地元の物、リサイクルの物を買いつけて欲しい。そうすれば、次の世代に美しい自然を残していけるのではないかと考える。

○各店舗で実施している環境学習をやりたい方は店長に言ってください。

岡谷のアピタでは5年もやっています。



○なぜ環境活動をしているか

次の世代に美しい自然を残すにはどうしたらいいかを、お客様、メーカー、輸送業者、行政と一緒に活動ができればいいなと考えています。

私達の孫の孫の時代に、きれいな青い空があって、海で泳げるような地球を残していくために、是非これからも皆様方と一緒に環境活動をやっていききたいと思います。

県事業のお知らせ

発表者／長野県環境部廃棄物対策課 課長 石田 訓教

○県で実施している資源循環システムの構築に関する事業をご紹介します。

○長野県のごみの現状（一般廃棄物）

長野県から1年間に出る一般廃棄物の排出量は72万トン。一般家庭から出る生活系ごみは、少しずつ減っている傾向で、事業所等から出る事業系ごみについては、あまり減っていないという状況。

事業系一般廃棄物における、生ごみの占める割合は約30%と言われている。

3割を占める「生ごみ」の発生抑制が必要と考え、次にご紹介する「食べ残しを減らそう県民運動」の事業を始めた。



○「食べ残しを減らそう県民運動」は今年6月からスタートした事業で、事業の柱は大きく分けて2本

- ①事業者に向けて、モデル事業で実施した協力店の募集を、県内全域へ広めること。
- ②消費者に向けて、家庭や学校での食べ残しを減らす取組を実践できるよう啓発を行っていく。

○消費段階における外食産業の生ごみは、楊枝、紙などの異物が混入しているなど再生利用がなかなか進まない現状にある。このことから、外食産業から発生する生ごみは、その発生そのものを減らす取組が必要。

○協力店の募集では、①小盛メニュー等の導入②持ち帰り希望者への対応③食べ残しを減らすための呼び掛けの実践④その他食べ残しを減らすための独自の工夫 から1つ以上を選択し実践し、協力店であることを示すステッカー、取組を記入したポスターを掲示し、取組を実践している。

この協力店制度は、多くのお店を登録し、認知度を上げることで、食べ残しを減らす意識啓発の効果が現れるものと考えている。

○消費者に向け「食べ残しを減らそうキャンペーン」として啓発活動を実施。環境フェアや小学生の県庁見学などで、食べ残しを減らすことについてパネル展示などにより家庭や学校でも生ごみを減らすために次の3つの言葉をキーワードとして呼びかけています。



- ①買い物の時、事前に冷蔵庫の中身を確認し食材を買いすぎない。
- ②家庭での料理は作り過ぎない。
- ③外食では自分の食べられる分だけにし、料理を頼みすぎない。

○その他にも3Rの推進に向けてご覧のような事業を行っています。

本日、後方に各事業関係の展示を行っていますのでご覧いただきたいと思います。

- ・レジ袋削減県民スクラム運動・信州リサイクル製品認定事業
- ・環境にやさしい買物キャンペーン・産業廃棄物3Rサポート事業

講演

オーベルジュ・エスポワール 藤木 徳彦 氏

食品残さ削減 ～キーワードは地産地消～

茅野市蓼科高原のレストラン「オーベルジュ・エスポワール」のオーナーシェフである藤木さんは東京都のお生まれで、1998年に現在の「オーベルジュ・エスポワール」を蓼科高原にオープンされました。地元食材を使った料理教室や食育講座、大学の講師なども努められています。2008年に農林水産省が実施した、第1回「地産地消の仕事人」の選定において、全国から48人が選ばれた中の一人として、そこでしか味わえない美味しい料理やおもてなしを提唱し、料理を通じて環境問題への関心を持ち、全国各地でご活躍されています。(オーベルジュ：地域の食材を美味しく出すレストラン)



○開店当時は地域の食材がなかなか手に入らなかった。開店1年目のゴールデンウィークには地元食材が1つも手に入らず、東京から来たお客様から、地元食材が食べられないなら長野に来た価値が無いと叱られた。

○地元の食材を手に入れられるまで農家に通ううちに、農家の現実直面し、料理人として何かお手伝いしたいと思うようになった。

○出荷できずに廃棄するような野菜を、料理人として工夫し調理ができないか考え、野菜の作り手が高

齢者であれば、担い手を育成するためにお手伝いできないか考え、料理人として現場を盛り立て、地元食材を仕入れた。

○お店の従業員達も、まかない料理で腕を磨いている。お客に出せない野菜の皮、葉、軸などからおいしい料理を作る方法を考える。最初は気が狂いそうになるが、毎朝出勤前に仕入れ先農家へ行って、その日使う野菜を収穫するようにし、農作業を手伝うようになってから、農家の苦勞がわかり、食材を無駄にしないよう調理するようになった。

○飲食店の調理場はゴミだらけ。食品を扱う人間に「感謝」の気持ちが無い。無駄なくどう使うのか、工夫をすることが料理人から見ると足りない。

○学校給食のアドバイザーをしており、学校給食の調理現場でもメニューの提案をしているが、形のそろっていないジャガイモは調理しづらいなどの意見もある。

調理をする側が無駄なく使い切ろう、地元のものをなるべく使おうという気持ちにならなければ、ごみは減らないのではないかと思う。少し手間を掛けてもおいしく調理する方法を講習会などで伝えたい。

○循環型エコ農畜産物事業

信濃町の遊休荒廃地を再生させるために豚を放して育てる事業にかかわっている。

エコ事業で作った豚だけ買って下さいというつもりは無く、この放牧豚はこういう調理に適するなど、おいしく食べる方法を提案していきたい。長野県内の良い食材を活かし使い切ることで、信州の良さをもっとアピールできると思っています。



環境講演と落語

落語家 林家 うん平 氏

「もったいない」を身近なことから 自分スタイルで始めよう

林家うん平師匠は、昭和54年に、林家こん平師匠に入門され、現在、社団法人落語協会の真打であり、東京の鈴木演芸場、末広亭、浅草演芸ホールなどに出演するほか、各地での落語会に出演されるなどご活躍されていらっしゃいます。

趣味・特技は、料理作り、卓球、ゴルフ、マジックバルーンと多彩で、調理師の免許もお持ちです。環境問題に大変関心をお持ちで、環境をテーマとした講演を、特技のマジックバルーンを活用しながら、わかりやすくお話しいただきました。講演後は、「古典落語」もご披露いただきました。



○マジックバルーンを使って、大根1本の使い道を教えていただきました。

○風呂敷包みならぬ、スカーフ包みを教えていただきながら、実際に参加者の方に挑戦していただきました。

おしゃれな布に包めば、素敵なエコバッグに早変わり！

レジ袋はもらわないようにしましょう。

○講演の後は、『もったいない』に関する落語を一席。



○楽しみながら、物を大切にすることを学びました。



ブース展示

長野県、信州豊かな環境づくり県民会議、長野県リサイクル資材協会、中部森林開発研究会長野県支部



○ 3R推進月間横断幕



○ 「レジ袋削減県民スクラム運動」と「食べ残しを減らそう県民運動」の展示



○ 信州リサイクル製品の紹介とリサイクル資材協会の展示



○信州豊かな環境づくり県民会議で実施したポスターコンクール入選作品



○信州環境フェア2010で 松本蟻ヶ崎高校「書道ガールズ」が書いた作品

